

高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成

解決したい課題・研究開発目標

【現状と課題】

■ 高齢者が住み慣れた地域で、最期まで自分らしく生きることを妨げている問題

- ① 本人・家族の意思決定プロセスを支援する態勢の不備、
- ② 最期の生のよいあり方や医療の役割についての地域住民の理解、
- ③ 家族の介護負担軽減のための社会的ケア導入に否定的な意識

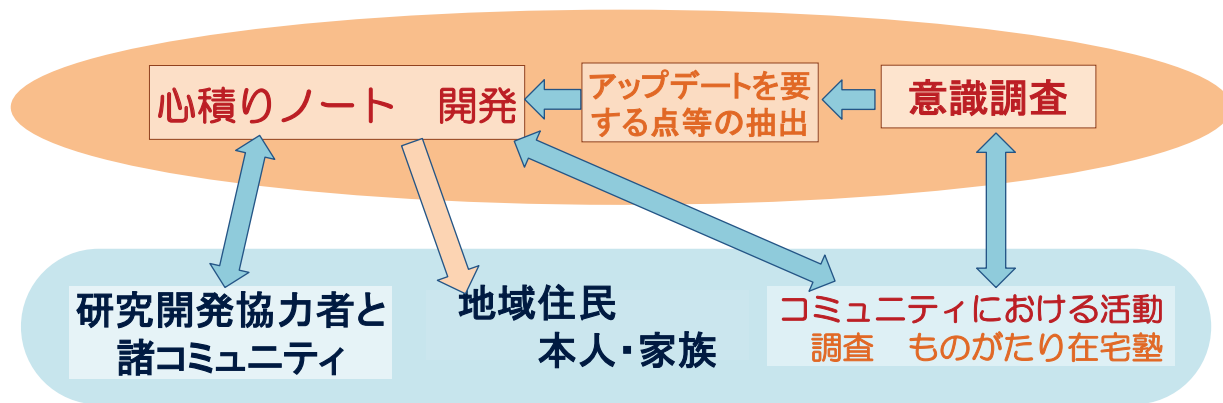
【研究開発目標】

■ 高齢者ケアを取り巻く上記3つの側面を改善し、高齢者のよい人生を促進する社会的環境づくり

そのために... (1) 上記問題点を確認するための **コミュニティ住民の意識調査**

(2) 意識調査に基づく、**意識アップデートのポイント抽出と対応策**

(3) 本人・家族の意思決定プロセスを支援するツール (**心積りノート**) 開発



対象コミュニティ・関与者

【対象コミュニティ】

* ナラティブホームとその活動地域 (富山県砺波市)

* その他本研究開発グループと協力関係にある諸臨床現場

【主要な関与者】

- * 東京大学、
- * ナラティブホーム、
- * 庄東地区社協、
- ・老人看護CNS、
- ・国立長寿医療研究C

第2回 臨床倫理セミナーin砺波
— 臨床倫理…考え方と事例検討 —

日時 平成26年9月28日(日)
〈受付〉9:00 〈講義開始〉9:30～ 〈終了予定〉16:00

場所 市立砺波総合病院 南棟4階研修室(新棟)

講師
● 清水 哲郎
東京大学 医学部 応用倫理センター 上席講師 特任教授
● 会田 薫子
東京大学 医学部 応用倫理センター 上席講師 特任准教授
● 石垣 靖子
北海道医療大学 客員教授

定員 50名 **参加費** 500円(お弁当代含む)

申込方法 裏面よりFAXにてお願いします

応募締切 9月20日(土)迄

お問い合わせ ものがたり診療所 ☎ 0763-55-6100

主催: RISTEX採択プロジェクト「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」
共催: 市立砺波総合病院 看護部

第3回 ものがたり在宅塾 市民公開フォーラム

この街で最期まで暮らしたい
— 昔、今、そしてこれから —

日時 平成26年 11月29日(土)

◆(1部) 基調講演 13:00～14:30
「十年介護 ～地域で看取るということ～」
フリーアナウンサー 町 亞聖氏

◆(2部) 対談 14:50～15:30
「それぞれの立場での看取り 家族として 医療者として」
町 亞聖氏と佐藤 伸彦 所長との語り

場所 オークス砺波平安閣 **参加費** 無料

申込方法 裏面を記入しFAXでお申込みください
※締切り…11月21日(金)迄

お問い合わせ ものがたり診療所
〒939-1374 砺波市山王町2-12
☎ 0763-55-6100

主催: RISTEX研究プロジェクト「高齢者ケアにおける意思決定を支える文化の創成」

プロジェクトの現在とPJ期間内の見通し

お問い合わせ先

東京大学(院)人文社会系研究科

死生学・応用倫理センター

上廣講座 uc4dals@gmail.com

《心積りノート》の開発

〔事前指示 advance directive〕

- 死の直前 & 意思表示できなくなっている時のことだけ聞いている
- 聞かれた本人は「自分が死ぬ時のことなど考えたくない」と思う傾向
- 本人の真意かどうかははっきりしない様式が多い
- 見せられた医療者はどう確認したらよいか困る
- 「自分のため」というより、「医療者のため」「家族のため」(どうしたらよいか困らないように)
- ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を導入したとしても、目指すのが事前指示では、仕方ない



〔心積りノートの考え方 1〕

- これから先、身体の衰えに伴って、希望する治療・ケアがどう変わるかを心積り
- その延長上に死の直前のこともある
- 死ぬことではなく、生きることを考えるので、抵抗が少ない(のでは?)
- 本人単独で考えるのではなく、家族や医療・介護関係者と一緒に考える
- 本人の真意であることを確認できる関係者が複数いる
- 自分の人生の送り方の心積りなので、「自分のため」
- ACPのツールとして、相談員等が本人・家族と話し合う際に使うことを期待



〔アップデートしたい通念〕

- 生命維持をして生き続けられるなら、やらねばならない
- 生命維持を始めたら、止めることはできない
- 急変時には救急車を呼べば安心だ
- 最期は病院で手厚く「できるだけことはしてください」
- 死が近づけば、それだけ医療にはやる必要がある
- 家で看取することはできない(怖い、不安)
- 親の死に目に会わないと気が済まない
- 「遠くの親戚のおじさん/嫁にでた娘」症候群
- 他人の世話にならないように生きるのがよい(社会的介護はできるだけ受けない)
- 介護は家族がするもの
- 人のいのちの問題なのに、医療や介護について経済的なことを持ち出すな



〔心積りノートの考え方 2〕

- 自分の人生を振り返り、これからどう生きたいか、何をしたいかを考えましょう
- まずは、自分らしい生き方を意識する
- 簡単な事例について、他人の選択をみて、評価してみよう
- これからの人生の推移を→ 他人事だと、気軽に考え、評価できる → 本人の価値観が反映した評価
- 今後の人生を予想、3から4のポイント毎に、自分の身体と認知の機能、社会における活動を設定
- 積極的な治療をどこまでやるか、長生きのためなら、どこまで辛さを我慢するか
- 考えるための種々の情報を提供
- 情報は[通念のアップデート]を図る内容を含む

《心積りノート》 試行版を 使ってみてくださるグループ・プロジェクト募集！ 上記お問い合わせ先にご連絡ください